

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立たまがわ高等支援学校
取り組む課題	D 生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信 ・ 希望進路実現率の向上
計画名	竹でつながる縁は知的障がい者雇用の促進！？ ～職業学科を中心とした SDGs の取り組み～

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>学校経営推進費事業（R6）『竹でつながる縁は知的障がい者雇用の促進！？ ～職業学科を中心とした SDGs の取り組み～』 3年め（R8）の評価指標</p> <p>①大阪大学での職場実習を年間4人以上実施、就労者2人 ②大阪大学豊中キャンパスの地域の方々への草花・野菜・竹製品・プランター等の販売を実施 ③学校教育自己診断（生徒）の「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の肯定率95%（R6：84%） ④学校教育自己診断（生徒）の「授業や行事で近くの学校や近所の人と交流することがある」の肯定率70%（R6：68%） ⑤学校教育自己診断（教職員）の「教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている」の肯定率87%（R6：89%）</p>
事業目標	<p>① 知的障がい者雇用の促進</p> <p>大阪大学の『障がい者雇用対策チーム（通称「エコ・レンジャー」）』では、現在、学内環境の維持・美化に取り組んでいる。新たに農業分野での事業拡大を進めようとしており、本校の福祉・園芸科園芸分野がこの取り組みを支援する。具体的には、豊中キャンパスにプランターを設置するなどし、植物を育てるノウハウを伝えていく（現地に生徒・教員が出向く他、オンラインによる指導・助言も行う）。農業分野における知的障がい者雇用モデルとして、その可能性を広く世間に知らせる。</p> <p>② 大阪大学の竹を利用した SDGs の取り組み</p> <p>大阪大学内で伐採し廃棄予定であった竹を本校に運搬し、竹灯籠やプランター等の製品づくりを行う（産業基礎分野）。また、竹の一部は竹炭にし、肥料として活用する（園芸分野）。これらは、①のキャンパスロード整備（石橋門から阪大坂周辺）に還元することにより、SDGs の取り組み（社会科の学習）にも繋げていく。</p> <p>③ 職業学科等における学びの充実（新規製品の開発等）</p> <p>②の竹炭による土壌改善（園芸分野）や消臭グッズ等の製品化（バックヤードサービス分野・オフィスサービス分野）を行う。また、竹製のプランターにレーザー加工機を活用して学校名を入れる他、本校の他製品にも学校名（美術等の授業でデザイン）を刻印し、ブランド化を図る。このような取り組みにより、職業学科・教科間の連携も行う。</p>
整備した	○レーザー加工機

設備・物品	○レーザーマーカ付き卓上スライド丸のこ ○無煙炭化器 ○プロジェクター ○電動ドリル ○耕運機 ○モルタルミキサー ○收音マイク
取組みの 主担・実施者	主担：進路支援担当者及び、園芸分野長と産業基礎分野長 実施者：園芸分野及び産業基礎分野を担当する教職員を中心に、連携する全職業学科・教科を含む教職員
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・レーザー加工機や電動ドリルを使用し、産業基礎分野で竹製品を9品（竹灯籠やプランター、門松、スプーンなど）製作することができ、当初予定していた竹灯籠やプランターだけでなく、門松やスプーンなど、竹製品の可能性をさらに広げることができた。 ・園芸分野では、産業基礎分野で出た廃竹を無煙炭化器で竹炭にした。これをモルタルミキサーを使用して肥料とし、耕運機で本校畑を耕すことで、より質の高い土壌づくりができた。 ・阪大との連携で、プロジェクターを使用し、オンラインで現地の様子を確認することができた。また、本校の生徒たちにとっては、現地で働くイメージを持つことができた。 ・バックヤードサービス分野では、竹炭を使った消臭グッズの試作を行った。 ・美術では、たまがわロゴ作成に取り組んだ。（レーザー加工機で竹製品等に刻印する予定。） ・2年の社会では、本校の竹の活用も「SDGsの取組み」のひとつになることを取り上げて学習した。
成果の検証方法 と評価指標	①大阪大学での職場実習を年間2人以上実施。 ②竹を材料とした製品の試作3品以上。 ③学校教育自己診断（生徒）の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」の肯定率を90%にする。（R5：87%） ④学校教育自己診断（生徒）の「授業や行事で近くの学校や近所の人と交流することがある」の肯定率を65%にする。（R5：62%） ⑤学校教育自己診断（教職員）の「教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている」の肯定率を83%にする。（R5：80%）
自己評価	①職場実習については、4名実施することができた。……………【◎】 ②竹製品を9品作成することができた……………【◎】 ③84%（3%㍿）。自分で考え、発表する課題は増えているが、生徒自身の設問内容の理解が不十分なことも考えられるので、学校教育自己診断の設問方法等を検討したい。【△】 ④肯定率68%（6%㍿）。生徒会による地域発信や連携の取組み等、生徒にもわかりやすい形で実施できたことが、この結果に結びついたと思われる。……………【○】 ⑤肯定率89%（9%㍿）。職業学科・教科横断した検討や相談が増えており、職業学科や各教科との横断的な取組みが進んでいる。……………【◎】 ・初年度ではあるが、それぞれの職業分野・教科が前向きに連携し、責任をもって活動することができた。
次年度に向けて	【課題】 ①阪大豊中キャンパスは、距離的には決して近くはないので、エコ・レンジャーと実地で連携するための時間を双方でどのように確保するか。 ②エコ・レンジャーの農作業をどのように軌道に乗せていくか。 【取組み】 ①担当者同士が密に連携し、早期から計画を立てていくよう意識的に取り組む。 ②エコ・レンジャーのメンバーが農作業を楽しんでいるような取組み（仕組み）が必要であり、最終的に、豊中キャンパスで、地域の方々に、エコ・レンジャーが育てた植物（野

菜等）や本校で制作した竹製品を、本校生徒と一緒に販売するなど、モチベーションがあ
がるような機会を持つための下地作りを進める。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	3,691,454	円
----------	-----------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
3 消耗需用費	1	竹用ドリル（φ3 φ4 φ5 φ6）	¥638	20	¥12,760
	2	竹用ドリル（φ7 φ8 φ9）	¥825	15	¥12,375
	3	竹用ドリル（φ10 φ11 φ12）	¥1,023	15	¥15,345
	4	竹用ドリル（φ15）	¥1,210	5	¥6,050
	5	竹用ドリル（φ18）	¥1,397	5	¥6,985
	6	竹用ドリル（φ21）	¥1,595	5	¥7,975
	7	なた（竹割）	¥5,038	10	¥50,380
	8	オービットサンダ	¥12,243	2	¥24,486
	9	トリマー	¥10,758	2	¥21,516
	10	電動ドリル	¥5,775	12	¥69,300
	11	電気丸のこ	¥11,319	2	¥22,638
	12	草花種	¥15,730	1	¥15,730
	13	培養土	¥50,380	1	¥50,380
	14	GoPro（microSDカード込）	¥89,100	1	¥89,100
	15	集塵機	¥21,252	2	¥42,504
	16	NO焼き棒（無煙炭化器セットのオプション： 炭焼き窯の代替）	¥13,530	2	¥27,060
	17	耕運機	¥71,500	1	¥71,500
	18	培土器（耕運機オプション）	¥22,990	1	¥22,990
	19	集音マイク	¥27,200	2	¥54,400
	20	ミシン	¥77,000	1	¥77,000
	21	布地	¥9,053	1	¥9,053
	22	コンテナ	¥2,145	6	¥12,870
	23	散水タイマー	¥4,480	1	¥4,480
	24	台車（連結対応あり）	¥5,819	12	¥69,828
				小計	796,705
8 備品購入費	1	レーザー加工機	¥300,256	2	¥600,512
	2	レーザーマーカ付き卓上スライド丸のこ	¥102,146	2	¥204,292
	3	プロジェクター本体 EPSON EB-760Wi（壁掛け 金具含む）	¥371,800	3	¥1,115,400
	4	無煙炭化器（大）セット（炭焼き窯の代替）	¥337,216	2	¥674,432
	5	無煙炭化器（中）セット（炭焼き窯の代替）	¥107,613	1	¥107,613
	6	モルタルミキサー	¥192,500	1	¥192,500
				小計	2,894,749
				合計	¥3,691,454